

といれボリューション

宮城県仙台第三高等学校 51班

1. 背景と目的

マイノリティによって苦しむ人を減らしたいという考えから、その中でも今話題になっている**LGBTQ+**に注目した。調べていく中でオールジェンダートイレの存在を知り、性別や外見にとらわれることなく、どんな人でも安心して不自由なく利用できるトイレのモデルを作りたいと考えた。

2. オールジェンダートイレについて

オールジェンダートイレとは？

従来の男女別トイレのように個室に別れていて、個室の中に洋式トイレと小便器が設置されている。全ての性別の人が利用できるようにサンタリーボックスも設置されている。

従来のトイレの問題

・性自認が男性・女性に当てはまらない人、外見で性別を判断することが出来ない人に、本来のジェンダーとは異なる性別の規範にしたがってもらうことになる

⇒精神的負担を強いている

⇒男性・女性で別なのが「普通」として無意識に性的マイノリティを排除している

⇒オールジェンダートイレが必要なのではないか

3. 実際にあるオールジェンダートイレ

近畿大学東大阪キャンパス中央図書館のオールジェンダートイレ



ボストンのオールジェンダートイレ



4. トイレ全体をを改修せずにオールジェンダー化

＜目標＞

- ・お金がかからない
- ・大きな工事を要さない
- ・男女でトイレの作りの差をなくす

↓

三高のトイレを模型化して
オールジェンダートイレの模型を作ろう！！

男子トイレ問題

女子トイレにあって男子トイレには無いものが多い

- ・サンタリーボックス(ゴミ箱)
- ・音姫

個室のようなプライベート空間が少ない

男女トイレ共通の問題

トイレ表示やマークの違い⇒性差を感じやすい

解決策案

- 色の統一
男女差を感じることがない色にする
- マークの変更
外見にとらわれないマークにする
- 男子トイレ小便器の間に仕切りを設置



5. 結論

オールジェンダートイレを新しく作るのではなく、従来のトイレに足す形でオールジェンダートイレに近づける

↓

オールジェンダートイレに嫌悪感・敬遠感を抱く人も
受けられいれるのではないか

6. 感想

知識が全くない状態からのスタートで、本当に自分たちが触れても良い問題なのか不安に思うことが多くありました。しかしインターネットで調べたり、当事者の方のお話を聞けるイベントに参加してみたりして、少しずつ理解を深めることができました。修学旅行先では、近畿大学にある実際のオールジェンダートイレを見学させてもらい、とても貴重な経験になりました。ジェンダーの問題はなかなか難しいもので、どうアプローチすればよいのか答えが見つからない日々でしたが、今回の私達の探究やオールジェンダートイレのモデルを通して、少しでもその存在を知ってもらい、社会全体のオールジェンダートイレに対する理解に繋がってくれば良いと思います。

参考文献

- 1) <https://www.voiceupjapan.org/ja/all-gender-bathrooms/#:~:text=>
- 2) <https://chanto.jp.net/articles/-/225144?page=2>
- 3) <https://www.sanspo.com/article/20220223-T7ENXXGNFFL6FJQSCBRCZR04FM/>
- 4) https://gracian.biz/water_navi/toilet-expansion/